

「 おそろしい土砂くずれ 」

広島県 東広島市立御藺宇小学校 5年 わたなべ けんせい 渡邊 顕世

平成 30 年 (2018 年) 7 月 7 日、今までにないような大雨が降った。ぼくが住む広島県内では、とても大きなひがいになってしまった。雨がまだ降っているときは、ここはだいじょうぶ、テレビで報道されている所だけだと思っていた。でも、雨が止んだ日、車で外に出た。すぐ近くのいたる所で土砂くずれ。ついこの前いた場所がまるで、ちがう場所かのように、景色が変わっていた。テレビで報道されているところ以外にもたくさんひがいがあったのだ。

だいぶ落ちてきて、広島市のおばあちゃんちに行った時も、あそこも土砂くずれ、ここも土砂くずれになっていて、ここも景色が変わっていた。

お母さんの友達がひがいに合っていたし、この前まであった家があとかたもなくなっていたり、土砂が道路に流れだして、びっくりした。

こんな経験は、生まれて初めてだった。

ひなん指示はやりすぎだと思っていたけれどそうではなかった。

そして、ひがいが明らかになると、目をうたがった。広島県内で死者は 100 人を超えていた。そのうち約 60 人は土砂くずれで亡くなっていた。

建物ひがいも、中国地方だけで、3000 棟を超えていた。

土砂くずれも、広島県で 250 ヶ所近くありおどろいた。

今は、もう解消されているが、停電や断水も色々な場所でおきていた。

ひがいに合った人達が、大変そうに、土砂をてっ去している様子をテレビで見た。猛暑日が続く中、作業をしていた。

この作業を見ていると、4 年前の集中豪雨による、広島での土砂災害を思い出す。その時、ちょうど旅行に行っていたので、ニュースを旅行先で見て、自分の家や広島市のおばあちゃんちが心配だった。その時も、大量の土砂が団地におしよせた。そして、たくさんの人がひがいに合った。

お母さんの友達が命は助かったけれど、家の近くまで土砂がおしよせてきていたり、知り合いの人は亡くなってしまった。

この 2 つの大きな土砂災害から身を守るためには、自分はいじょうぶと油断せずに、いつもとちがうと感じれば、すぐにひなんすること。気象情報を事前に調べているとなお良いかもしれない。

また、地域で声をかけ合って、集団で行動し、なるべく安全にひなんすることや、ルールを決めてひなんする。実際に、今回の豪雨でも、自分の町は、あぶないと知り、町のみんなでルールを決めていたので死者が出なかったという町があった。

防災グッズを持っていれば、停電、断水にも何日間かなら対応できるだろうと思う。

ハザードマップは住んでいる土地の特ちょうを知ること、また、ひがいの予想と今回のひがいがほぼいっちしているため、非常に有効ではないかと思う。

防災訓練も、大切で、しっかり訓練をしていけば、あわてずに落ち着いて行動することができるのではないかと思う。

このような事をする事ができれば、人的ひがいは大きく減らすことができたと思う。しかし、自然災害はおそろしい。土砂災害は、一瞬で物や家、人、町までものみこんでしまうのだから。